

印西市環境基本計画（案）作成に対する提案（意見）

印西市の今後の環境政策の根幹ともなる次期環境基本計画（案）策定に当たり当市民会議で議論を進めてきました事項につき下記の通り取り纏めましたので御検討をお願い申し上げます。

記

I. 基本計画策定の基軸におく印西市の重要事項

1. 基本計画全体に SDGs の考え方及び 2020 年 10 月に政府が宣言した「2050 年までに日本の温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、2050 年カーボンニュートラル」を印西市でも達成ことを取入れる
2. 印西市の強みであり誇りでもある自然環境の保護・保全を最重要課題の一つとして位置付ける
3. この 10 年間の下記のような大きな変化を捉える
 - ①地球温暖化の急激な進行→想定外の深刻な災害（台風、洪水、山火事）
 - ②環境意識の急速な高まり
（グレタさんの登場、ESG 投資の拡がり、大企業の取組：アマゾン、マイクロソフト等）
 - ③新型コロナウイルス問題
 - ④多くの事業者の印西市への進出
 - ⑤開発の推進及び農業人口の減少に伴う環境の劣化

4. 基本計画の期間について

現基本計画は 9 年間で計画期間が必要に応じ見直すことになっているが、新しい基本計画においては地球規模の環境変化や都市開発による印西市内の自然環境の劣化のスピードが速まっているため、特に定量目標値に関しては少なくとも 5 年毎に見直しとする。

II. 総合課題

1. 計画の推進体制の見直し
環境審議会と環境推進市民会議（以下市民会議）の連携強化を図る。
2. PDCA サイクルの徹底
例えば、環境白書の重要性の再認識：市民会議においてもっと十分な検討時間をとる必要がある。
3. 基本計画の調査項目の追加が必要。
現状分析に基づき里山の生態系と一体化した基本計画の調査項目の追加（土

地利用の変化の把握)が必要(数値面及び地図)。なかんずく谷津の荒廃、草地の消失、台地の宅地化などの「見える化」が大切。今回の環境調査は谷津、草地など生育・生息環境に踏み込んだ調査となっているので、見直しや環境白書のチェック項目において、この調査結果の数値などを使用する。

4. 事業者との連携強化：環境保全活動（もしくは農薬を撒かない等の敷地のエコ化、景観作り）への支援要請推進

II.個別課題

1. 自然環境

地形や農業環境をインフラと考える<グリーンインフラ>の発想を取り入れ農業と農業環境（里山生態系）を守る施策をすすめる。

またハザードマップと重ねて保全地域を決めることは防災の視点からも求められる。

<グリーンインフラ特区（仮称）>制度の新設検討

- ①印西市の大きな魅力の一つである自然環境・谷津の保全による生態系を守るため
- ②特定の地域（例：武西の原っぱ、草深の森、亀成川一帯、師戸川一帯、竜腹寺地区等）をモデル地区として指定し総合的かつ重点的に施策を推進することを検討願いたい。
- ③自然ボランティア活動推進のためのポイント制導入を検討する。
- ④外来種対策（緊急対策外来種のアメリカザリガニ、特定外来生物のオオキンケイギク、ナガエツルノゲイトウ等）
- ⑤バスやブルーギルのリリース禁止を条例化（罰則規定）する。（イベント業者や釣り人が放流しているケースもある）
- ⑥生態系を守るため希少生物（例：サシバ、キツネ、トンボ類、ヘイケボタル、メダカ、沈水植物等）の保護を推進するため、条例もしくは印西市生物多様性戦略の策定や保護地区の設定、予算計上など具体策をとる。
- ⑦ペットは最後まで飼う。とりわけ水辺の生態系に壊滅的な影響を与えるカメ、メダカ等の水生生物の放流禁止。

2. 生活環境

- ①食品ロス削減を推進：食品ロス削減推進法（R元年5月公布）に沿って食品ロス削減を推進する。

②海洋プラスチック問題

レジ袋の有料化が2020年7月1日から始まった。これを機にプラスチックゴミの減量化を一層推進するとともにプラスチックの使用を抑制する様な施策を検討する。

また廃プラスチックの回収について容器プラスチックと製品プラスチックを区別せず資源物として回収し再利用することを検討する。

- ③ 高度処理型の合併浄化槽の普及と点検を促進する。
- ④ 河川、水路、池への排水を制限する施策を検討する。
- ⑤ 高齢者がより安心して暮らせる街作り；具体的には、ふれあいバスの市内全域

(特に交通過疎地)への拡充と活用並びにオンデマンド交通の採用を検討する。

- ⑥ 水質悪化が顕著な師戸川の水質改善を推進する。
- ⑦ 大気汚染：P.M2.5の継続的測定を実施し、トレンドを把握する。
光化学スモッグの原因究明と対策
- ⑧ 市としての土砂災害に対する施策を検討する。

3. 都市環境

- ① 土地利用や景観についての印西市のビジョンを明確にする。都市開発に際しては周辺の里山生態系に配慮して、エコロジカルネットワークの形成に努める。(グリーンインフラの生態系サービスを紹介し、農業と里山環境の保全の必要性を論拠として述べる)
- ② 不法投棄、ポイ捨て対策に関し、市民と連携した監視体制の充実を図る。
具体策：監視カメラの増設
- ③ 公園の維持管理活動に地域住民を巻き込む施策の検討(公園の防災基地化)
- ④ 無形民俗文化財等継承していく手立ての検討(広く募集する、長男縛り、小中学校での部活動として導入等)
- ⑤ 防災目的の井戸増設
公立の保育園、小学校、中学校など公共施設に非常時の井戸を手動も含めて増設する。(現状7か所)
- ⑥ 現在の緑地、自然を保全しこれ以上減らさない。優良宅地開発、住宅建設等に企業等を誘導する。

4. 地球環境

- ① 地球温暖化防止は正に地球規模の喫緊の課題であり、2019年12月に小泉環境大臣が各自治体に呼び掛けた「2050年ゼロカーボンシティ」を印西市も表明する。市民へのPRの意味もあり強く要請したい。また市民特に若者が温暖化防止に対する具体的な提案を検討する「場」を設けることを検討願いたい。
- ② 2050年ゼロカーボンシティに先立ち印西市では既に「クールチョイス宣言」をしている。これは2030年に向けて低炭素社会を実現しようとするものであり、今回の新環境基本計画の中に重要項目として取り上げる事で地球温暖化対策のために具体的に実行するべき計画(教育等)の作成を検討願いたい。
- ③ 2020年12月に経済産業省が発表した「グリーン成長戦略」に「遅くとも2030年半ばに乗用車の新車販売を電動車(電気自動車・EV及びプラグインハイブリッドカー・PHEV等)を100%にする方針を受けて、印西市で使用する乗用車を2030年までに、すべて電動車に切り替える。そのためのインフラ整備(急速充電スポットの設置拡大等)をめざす。また、水素ステーションを印西市に設置し、2030年代の早い時期には、ふれあいバスなどの大型車は究極のエコカーと言われる燃料電池車(水素自動車)にして、その普及に努める。
- ④ ソーラーシェアリング(営農型太陽光発電システム)の普及拡大

5. 人作り

環境問題は極めて大きくかつ多岐にわたるテーマであり、「何か自分でも出来

る事は無いか?」「少しでも貢献したい」と思っている市民も増えてきている。
この力を生かすべく人作りのための施策を強力に推進願いたい。

①環境学習の推進；小中学校での授業時間の確保

②環境保全のために市民が参加（体験）しやすいイベントを企画する。

例：環境保全作業体験会

・木の枝を拾って、鳥の巣を作る等

・森や水辺は手入れしないと良好な環境を守れないことを伝えたい。

③地域の歴史・文化を伝承すべく、子供達が地域のお年寄りから話が聞ける様な活動を学校で実施する。また後世に残せる様に文章化して保存する。

印西市の歴史・文化の伝承（中根、浦部の神楽等）にも留意する。

④環境フェスタ、交流館祭り等のイベントを活用し、市民へのPR活動を一層推進する。

⑤印西広報でのPR：環境に関するコラム（ゴミ拾い、森の整備等）を常設する。

Ⅲ. その他の課題

1. 用語説明の内容再検討

（追加候補：ゼロカーボンシティ、カーボンニュートラル、パリ協定、クールチョイス、SDGs、グリーンインフラ、食品ロス、ESG投資、マイクロプラスチック、気候非常事態宣言）

2. 里山保全の予算拡充

森林環境譲与税等の活用

3. 災害に強い街づくり

まずは近所付き合いが大切⇒日常の「挨拶励行運動」の推進

以 上